



体験版

その花びらにくちづけを

あなたと恋人つなぎ


ふぐり屋







うん!!



わたしの口から 自分でも
ビククリするくらいの
怒鳴り声が飛び出した

お昼時の廊下は人も多く
後から考えれば注目の的
だったかもしれない

止まれっ！
止まれっ！
止まれったらーっ！

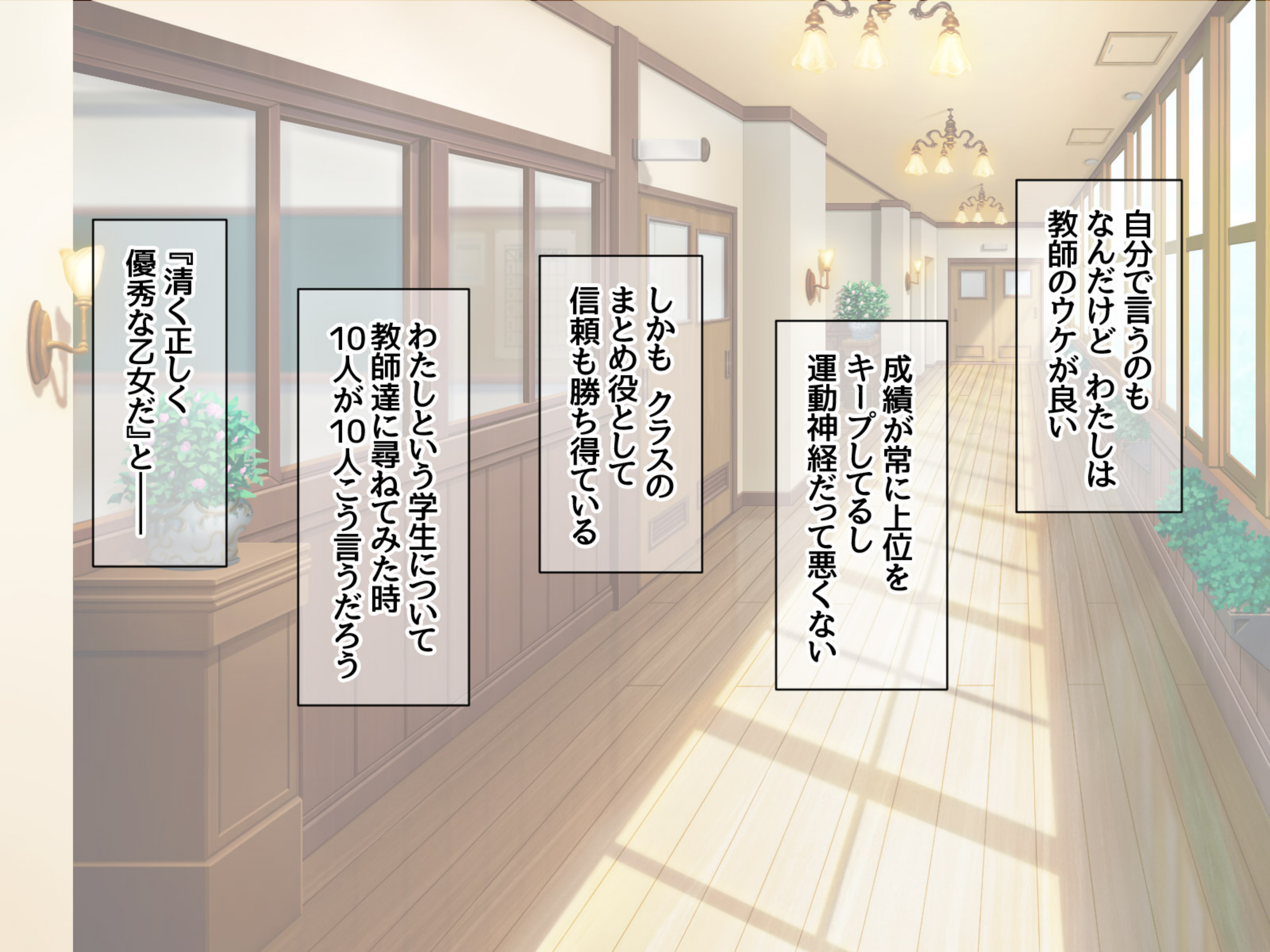
それでも 目の前を走る
彼女に大声をぶつけずには
いられないわたしは
もう一度声を張り上げた



ふんっ誰が
止まるもんですかっ！
んべーっ！
ばーかばーか

…むかつ今バカって
言っただよよね？
しかも舌出してっ





自分で言うのも
なんだけどわたしは
教師のウケが良い

成績が常に上位を
キープしてるし
運動神経だって悪くない

しかもクラスの
まとめ役として
信頼も勝ち得ている

わたしという学生について
教師達に尋ねてみた時
10人が10人こう言うだろう

『清く正しく
優秀な乙女だ』と――

ほほう…いい
度胸じゃない…

へ…

このわたしを
本気にさせたら…
どうなるか分かってんで
しょうねえええつ！

うきやああ
あああつ！





ここは
『聖ミカエル女子学園』
名前の通り 神の下に集う
少女たちの園

そこでは
清楚可憐 純真無垢
いずれも由緒ある家に育った
純粹培養の乙女たちが…

日々を勉学と
神への奉仕に費やしている…
ということになってる

わたし？ わたしは
数少ない例外だ 父は
ごく普通のサラリーマンだし
母も同じく会社勤め

両親共働きのおかげで
世間一般から見れば
裕福な方だとは思う

かと言って…
パーティを開くような
広い庭もなければ
黒塗りの高級車で
送り迎えもない

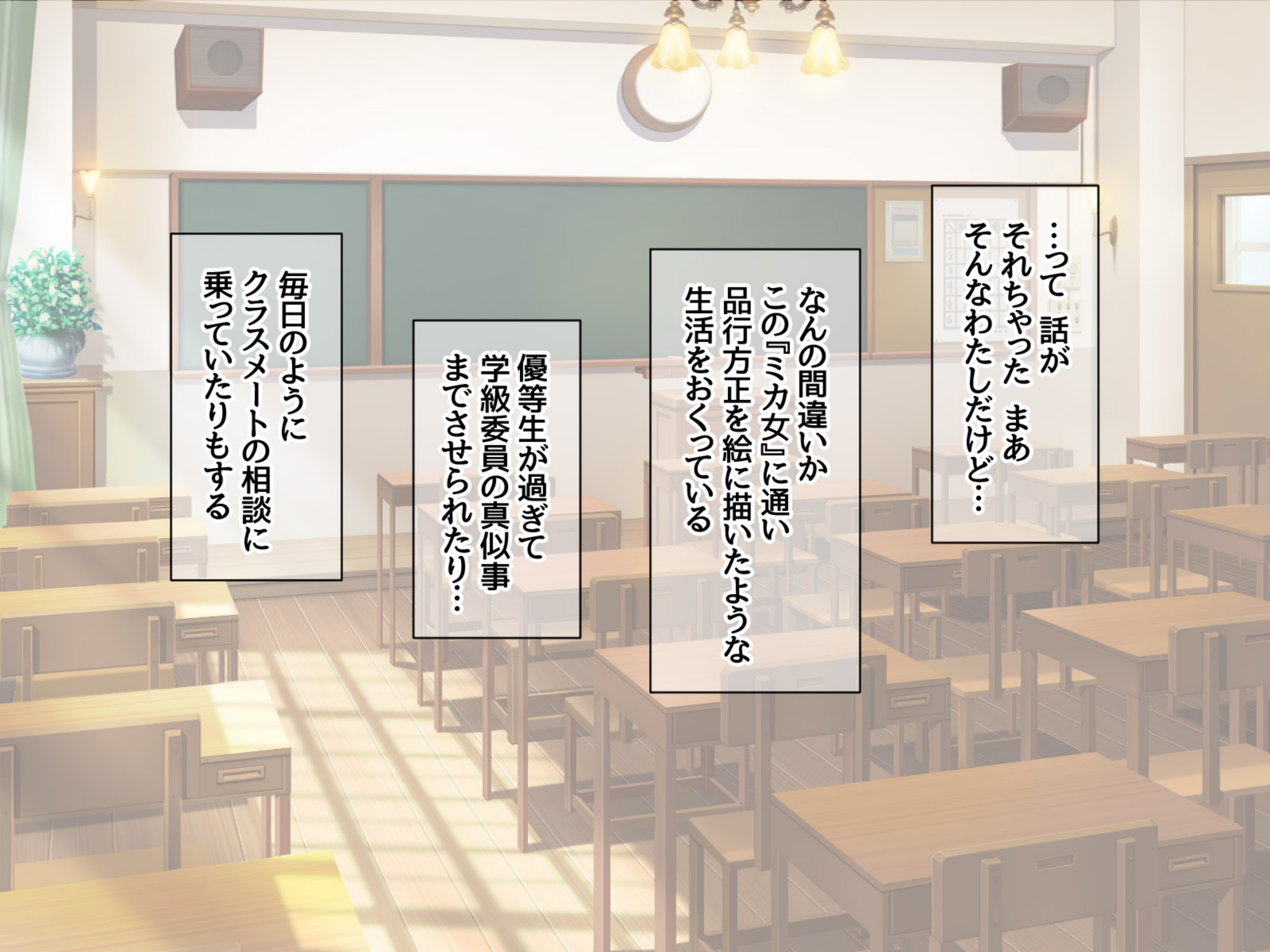
そのうえ 仕事で
家を空けることの多い
両親に代わって
幼い弟と妹の面倒を見てる

ほんとどこから
どう見ても『庶民』だわ

言ってみれば
薔薇の咲き誇る庭に
一本だけ顔を出した
チューリップのようなもの

精一杯薔薇のフリは
してみるものの…
目瞭然に違う その造形

ひよろりと高い身長とか…
我ながらチューリップとは
よく言ったものだわ

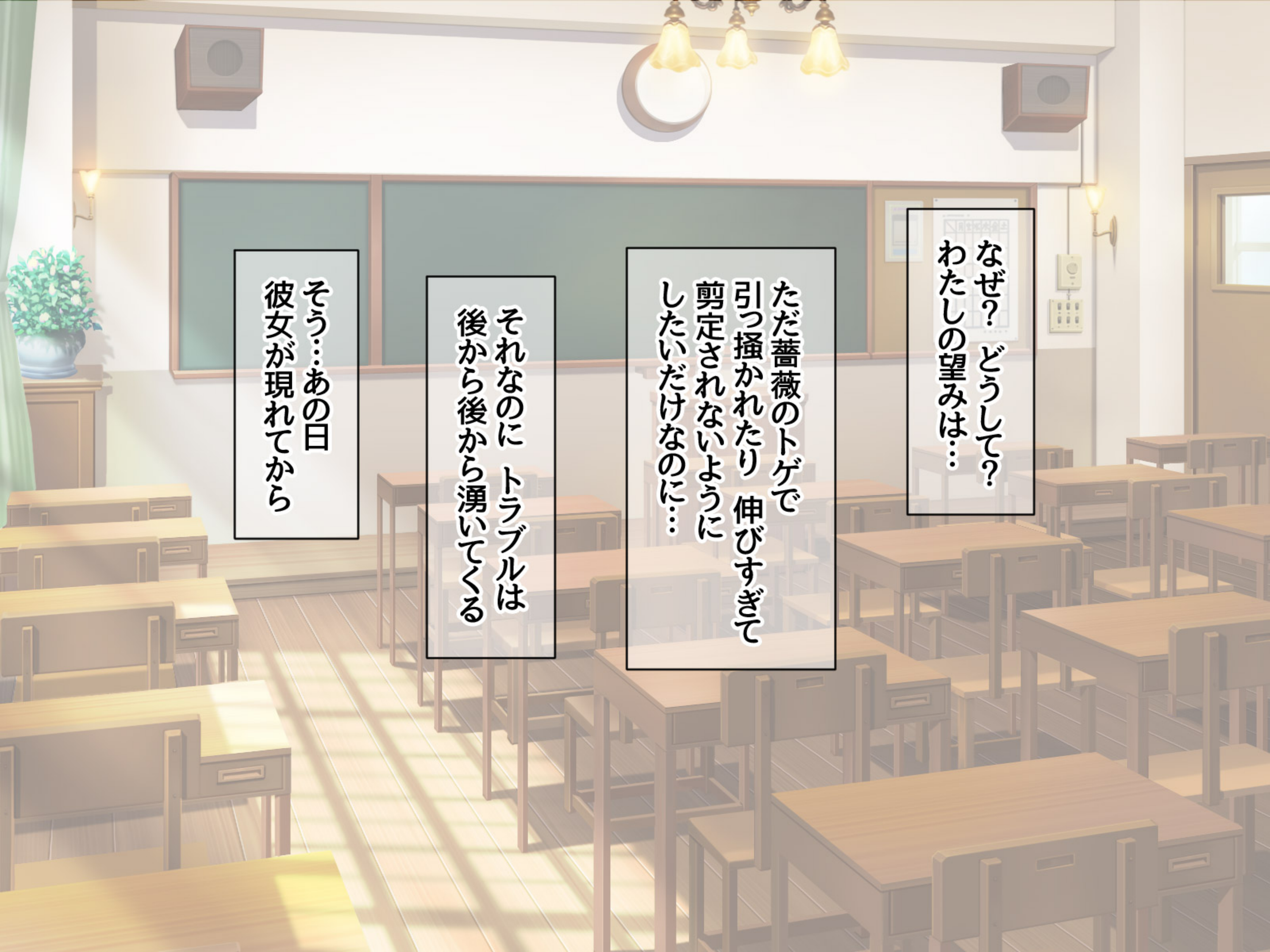


…って話が
それちやつた まあ
そんなわたしだけど…

なんの間違いか
この『ミカ女』に通い
品行方正を絵に描いたような
生活をおくっている

優等生が過ぎて
学級委員の真似事
までさせられたり…

毎日のように
クラスメートの相談に
乗っていたりもする



なぜ？ どうして？
わたしの望みは…

ただ薔薇のトゲで
引つ搔かれたり 伸びすぎて
剪定されないように
したいだけなのに…

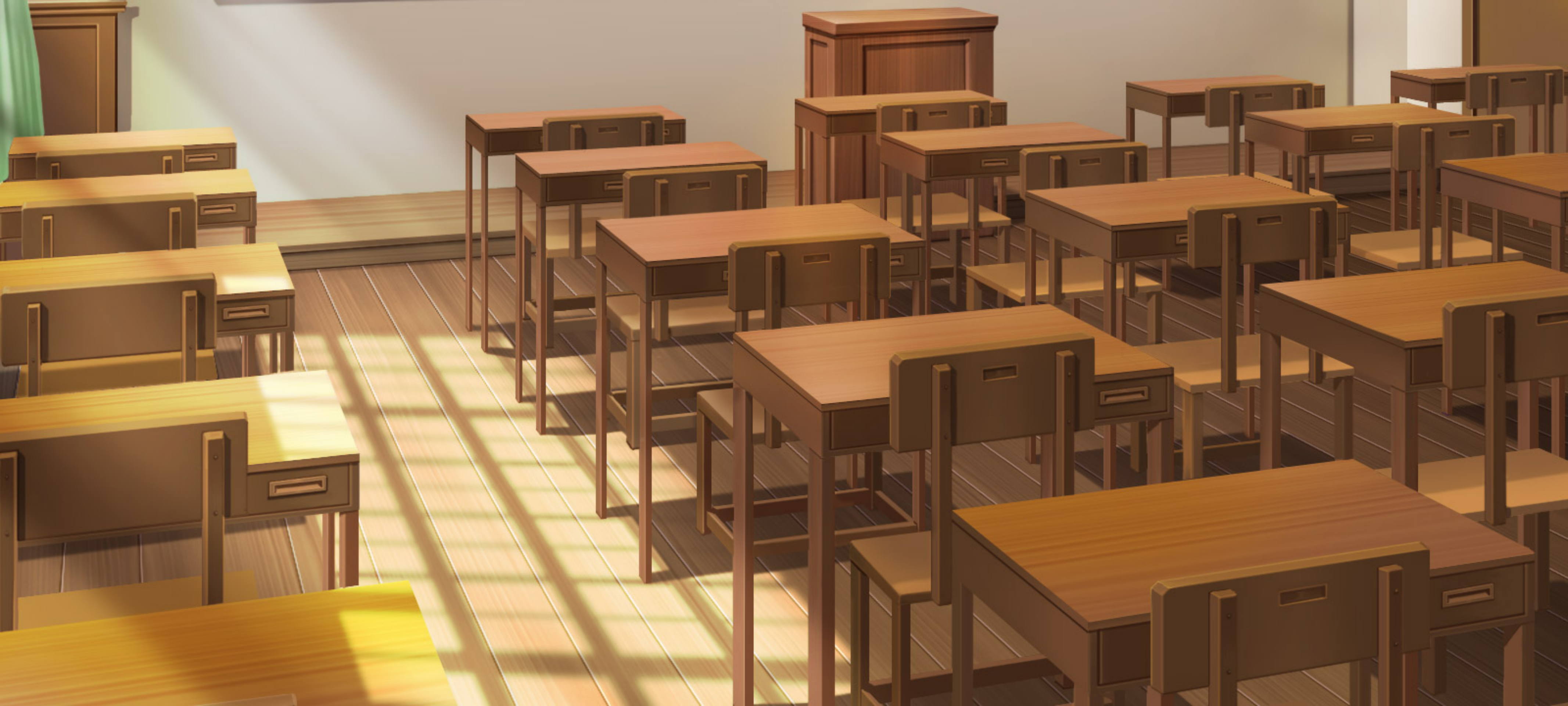
それなのに トラブルは
後から後から湧いてくる

そう…あの日
彼女が現れてから

——とにかく
わたしが言いたいのは
ひとつだ

いい加減わたしの
仕事を増やすなーっ！

つまりは
そういふこと





ふっ...?

An anime-style illustration of two girls in a classroom. The girl on the left has long blonde hair and blue eyes, looking slightly downcast. The girl on the right has short dark hair and purple eyes, looking towards the viewer with a slight smile. Both are wearing red sailor-style school uniforms with white collars and black bows. The background shows rows of wooden desks and chairs, a chalkboard, and a potted plant on the left.

なんで
ため息つくのよう

なによ
そんなにワタシが
悪いってゆーの？

ため息のひとつも
つきたくなるわよ…

うん悪い

なんでよーっ！

彼女…って
いうのも変か

彼女は小柄な身体を
めいっぱい
ジタバタさせて叫ぶ

このちつこいくせに
やたらと態度がデカくて
意地っ張りな子は…
『川村玲緒(かわむられお)』

ふわふわの髪の毛に
日本人離れした容姿

これでもれっきとした
『ミカ女』の学生で
わたしのクラスメート

見た目以上に
幼い口調のおかげで
誰もが小学生くらいだと
勘違いするんだけど…

クラスメートになったのは
つい先月からだけど



そんなこと言われても
知らなかったんだから
しょうがないでしょう！

はあ…

非難される筋合いは
ないとばかりに
彼女は胸を張る

思わずため息…
こんなやりとりを
ここ数週間で
何度繰り返したか…

あのね…

知ってるわよ

先週言ったわよね？
今日は調理実習だって

…うん

ついでに材料は
班で持ち寄りだって



持ち寄る材料は
きちんとメモを書いて
各人に配ったわよね？
このわたしが

お覚えてるもん

覚えてたらなんで
バターじゃなくて
ラードの塊を
持ってきてるのよーっ！

うにゃああつ!?



どこをどう間違えたら
こんな油の塊
買ってこれんのよ！
このおバカ！

ああつ
バカつて言った！

何度でも言つてあげる
バカバカバカバカ！
おバカ！

むきいいいっ！
バカつて言うなーっ



まったく どうして
あなたはそう
世間ずれしてんのよ…

私に買い物を
頼むのが悪いのよう
ラードとバターの違いなんて
分かるわけじゃないじゃない！

普通は
分かります

だって料理なんて
したことないし…



したことなくても
こんなの一般常識よ

くっ ああいえば
こう言う...

そりや自分でしようが...
なんだかもう
怒るのも疲れてきたわ

どうしてワタシの
言い分を分かって
くれないのかしら



その言葉
そのままそつくり
お返ししてあげる

うううう…

はああ だから昨日
一緒に買いに行こうって
言ったのに

うぐう…



バターぐらい
一人で買えるって
言ったのは誰？

うう…

あさすがに
しよげちやったみたい

…はああ
もういいわ



とりあえず
今はこの状況を
なんとかしないと

なんとかって？

ラードじゃケーキは
できないでしょ

そうなの？



そうなの

ともかく他の班の子に
バターが余らないか
聞いてみるとかしなきや

う…

途端に嫌な顔をする
ああ…まただ



あのねこれも前から
言ってることだけど
いい加減他の
クラスメイトとも
普通に接して…

別に
いい

いいで…

あそうだこれは玲緒が
クラスメイトと
仲良くなるチャンスかも



玲緒…これがきつかけで
クラスメイトと仲良くなれる
チャンスなのよ？

そんなチャンスは
いない

あのね…

転校してからだいたい経つと
いうのにこの子ったら
わたし以外の人間とは
口をきこうとしない

それどころか あからさまに
他の子を拒絶している

わたしも初めの頃は
口を訊いてもらえない
目すら合わせて
もらえなかった

それでもしつこくしつこく
話しかけているうちに
今くらいの会話は
できるようになったのだ



とにかく一緒に
聞いて回しましょう

ヤダ

どうして？ みんなと
仲良くなりたくないの？

ならなくていい



うわ 即答…
どうして仲良く
なりたくないのよ…

どうしても

…ああ そうですかい
まこの程度で引き下がる
わたしじゃないけど

いくらなんでも 卒業まで
誰とも口を訊かないなんて
ことできないでしょ？



ほら
さつさと来なさい

は話し相手は
麻衣が居るから
いいもん…

ん？

だから…
話がしたくなったら
麻衣のそこへ行くもん



生憎と
わたしは忙しいの

ちよつと冷たい
言い方だったかな？

玲緒はわたしの一言で
口先を尖らせた

鈍感…



は？
なにがよ

.....

早くミカ女に
慣れるためにも
聞いて回ろっ？ね？

えー！



行くわよ

逃げられないように
手を掴むと 玲緒は
その手をブンブン振る

うきやああつ!?
なななっ なんで
手を繋ぐのよっ!?

強制連行よ
諦めなさい

ははは 放してよ!
ていうか
放しなさいっ!



そんなこと言っても
逃がさないわよ

ぐいっと手を
引っ張って連行する

んにゃあっ!?

いい?
ちゃんとみんなに
話しかけるのよ

はわっわ
あわわっわ

どうしたの？

手…て手が…

あ
痛かった？

ちがつ…
そうじゃなくて…
ささつきより
強く握ってるっ



だから
痛いのか？

ま まままつ
麻衣に頼らなくても
一人で訊けるわよっ

だから今すぐ
手を放しなさいっ

涙目になつて抗議するが
どうにも心配なのでやつぱり
このままにいることにした

放してあげない

麻衣くっく

なんか暴れてるけど
とりあえず
実力行使あるのみ

さつさと班の
みんなのとこへ
連行しないとね



それにしても
この子って
ずっとこうだわ

そう初めて会った
あの日からずっと――



あの日のことは
数週間経った今でも
なぜか鮮明に覚えている

桜舞う4月――

とはいえ 新学期開始には
まだ1日ほど早い日のこと

確か あの日もこんな風に
玲緒の手を引いて
廊下を歩いたんだ…



はあ…
どうしてこう 面倒ごと
引き受けちゃうかなあ…

もちろんこれは
自分に対する文句

優等生な自分が
恨めしいわ

などと一人で
ため息なんか
ついていると


麻衣さん…
どうなさったの？

ゆ
優菜さん

急に声をかけられて
わたしはちよつと慌て気味に
その人の名前を口走った

松原優菜さん…
わたしと同じ2年生で
環境整備委員をしている





あ：環境整備委員って
いうのはいわゆる
学生自治組織みたいなもの

そこに所属してるってことは
学生の代表ということになる

優菜さんは1年生の時から
幹部として働いている

噂じゃ新学期と同時に
委員長になるらしい

ごめんなさいね…
委員でもない麻衣さんに
入学式を手伝わせて…

え？ ああ
いいのいいの

今年は日曜にやったせいで
お手伝いしてくれる方が
少なくて…

まあせつかくの休みは
のんびりしたいもんね



ほんとそっぴよね

ふふふ

ふふふふ

なんとなく顔を
見合わせて笑ってしまう

お互い損な役回りだと
無言で語り合ってるみたい



あそうだ…できたら
簡単に校舎内を見て回って
もらえないかしら？

もしかしたら
新入生が
迷い込んでるかも

うん
分かった

私は途中で
グラウンドの方を
見ていくから



そう言うて
優菜さんは早歩きで
昇降口へ向かった

さすが…細かいところに
良く気がつくわ

3年生を差し置いて
彼女が委員長に
推薦されたのも納得だわ





真新しい制服に
身を包んだ二年生たちが
吸い込まれるように
講堂へ消えていくのを
横目に廊下を歩く

わたしも
去年はあの列に
混じってたのよねー

なんて気分浸つてると
目の前に見慣れた
制服が見えた

その制服の主に
目をこらした瞬間――
なんとも言えない不思議な
感覚がわたしを襲った

すぐ脳裏に浮かんだのは
精巧なフランス人形

フワフワの髪の毛は
窓から差し込む
光を浴びて
キラキラと輝き

細く整った眉に
バランスよく配置された
目鼻口



中でもくりくりと
大きな瞳は透き通って
向こう側が見えそうな
くらいにキレイだ

なにを食べて育ったら
あんな白くてきめ細やかな
肌になるのか是非とも
お聞かせ願いたい



つてそんなことしてる
場合じゃなかった…
あなた——

……



あれ？無視して
行っちゃった…
もしかして緊張で
聞こえなかったかな？

あなた
1年生でしょ？

……

またしても反応なし
今度は確実に聞こえてた
はずんだけど…



ねえ1年生なら
早く講堂に行かないと
すぐ入学式よ

…ワタシに関係ない

ぶっきらぼうに答える
その声は見た目以上に
幼い感じだった

いや
関係ないって…



新入生が入学式に出ないって
それはちよつと
どうかと思うわよ？

.....

ジロツとこちらを睨む
フランス人形

ちよつと不機嫌そうな顔が
むしろ魅力的に見える



とにかく
わたしに着いてきて？
講堂に連れて行って
あげるから

なんでそんなとこ
行かなくちやいけないのよ

なんでって
いやそれは…

…家に帰るの
手放して



あっ

知らず知らずのうちに
彼女の手を
掴んでいたらしい

慌てて手を放すと
お人形さんのような
少女は髪の毛を
なびかせて歩いていく

つてこら! そっちは
講堂じゃないつてば

んぎゅっ!?

あ思わず
襟首掴んじゃった

なにすんのよ！

いやだから
入学式に…

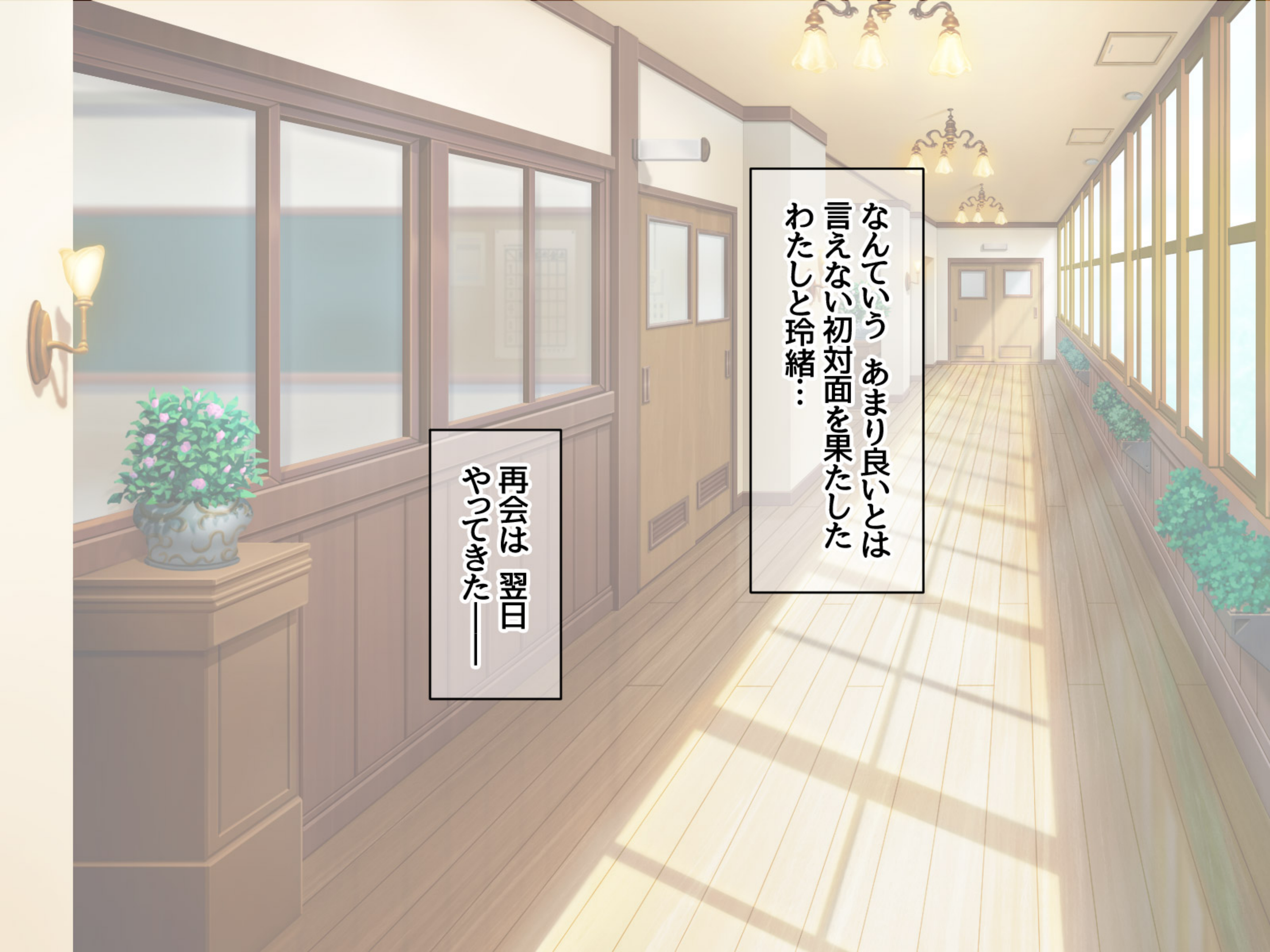
わわた…

綿？



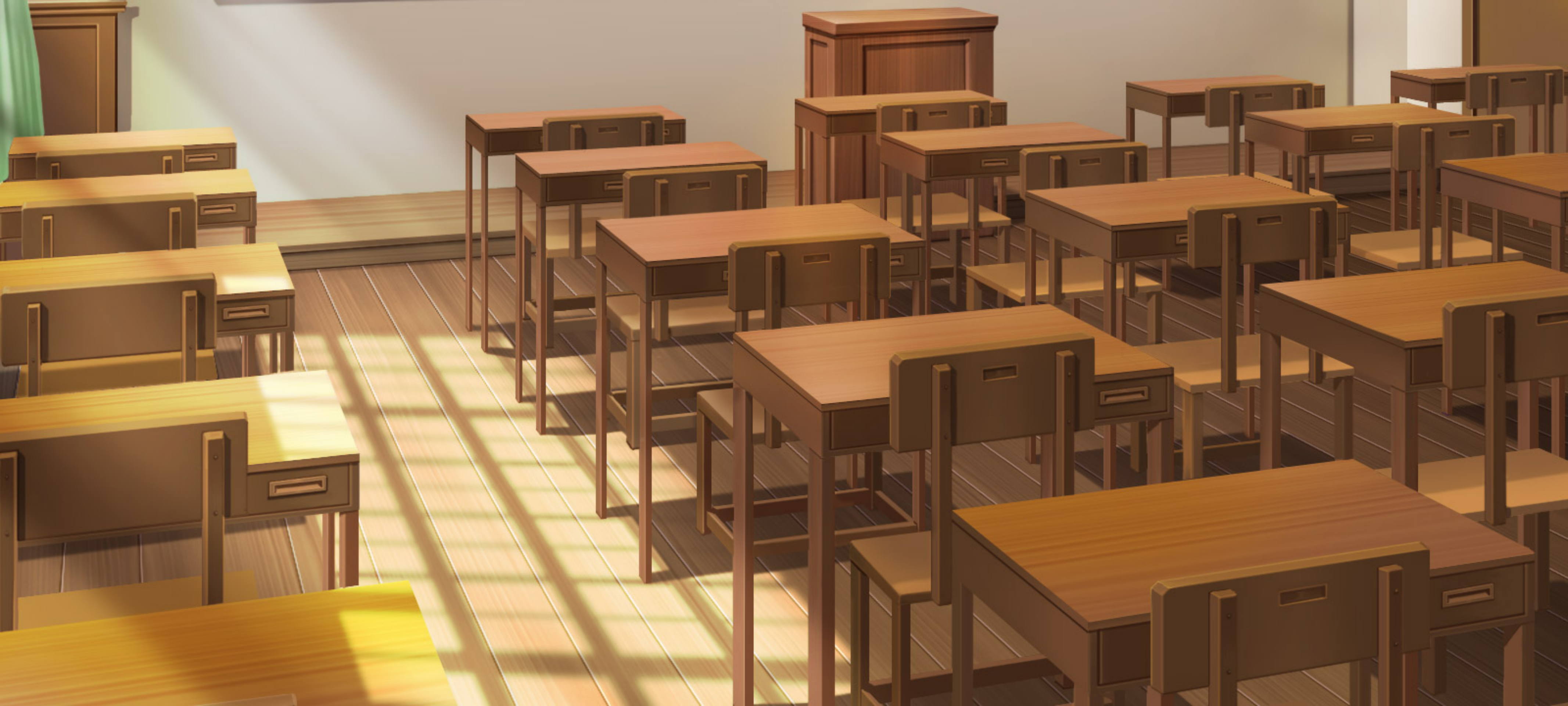


ワタシは1年生じや
なああああい！



なんていうあまり良いとは
言えない初対面を果たした
わたしと玲緒…

再会は翌日
やってきた—



今日は転入生を
紹介します

川村さん
お入りなさい

はい

先生に呼ばれて
入ってきた少女は…
昨日 思いっきり勘違いして
怒らせた彼女だった





…
#

…
!?

あー…
睨んでる睨んでる

…うわっさっぞく
目が合っちゃった

今年からこのクラスの
一員となる川村玲緒さんです
皆さん 良くしてあげてください

さあ

自己紹介をどうぞ

はい…川村玲緒です
よろしく

彼女の自己紹介は
とってもシンプルだった…
シンプルすぎて
とても『よろしく』なんて
態度に見えないくらい

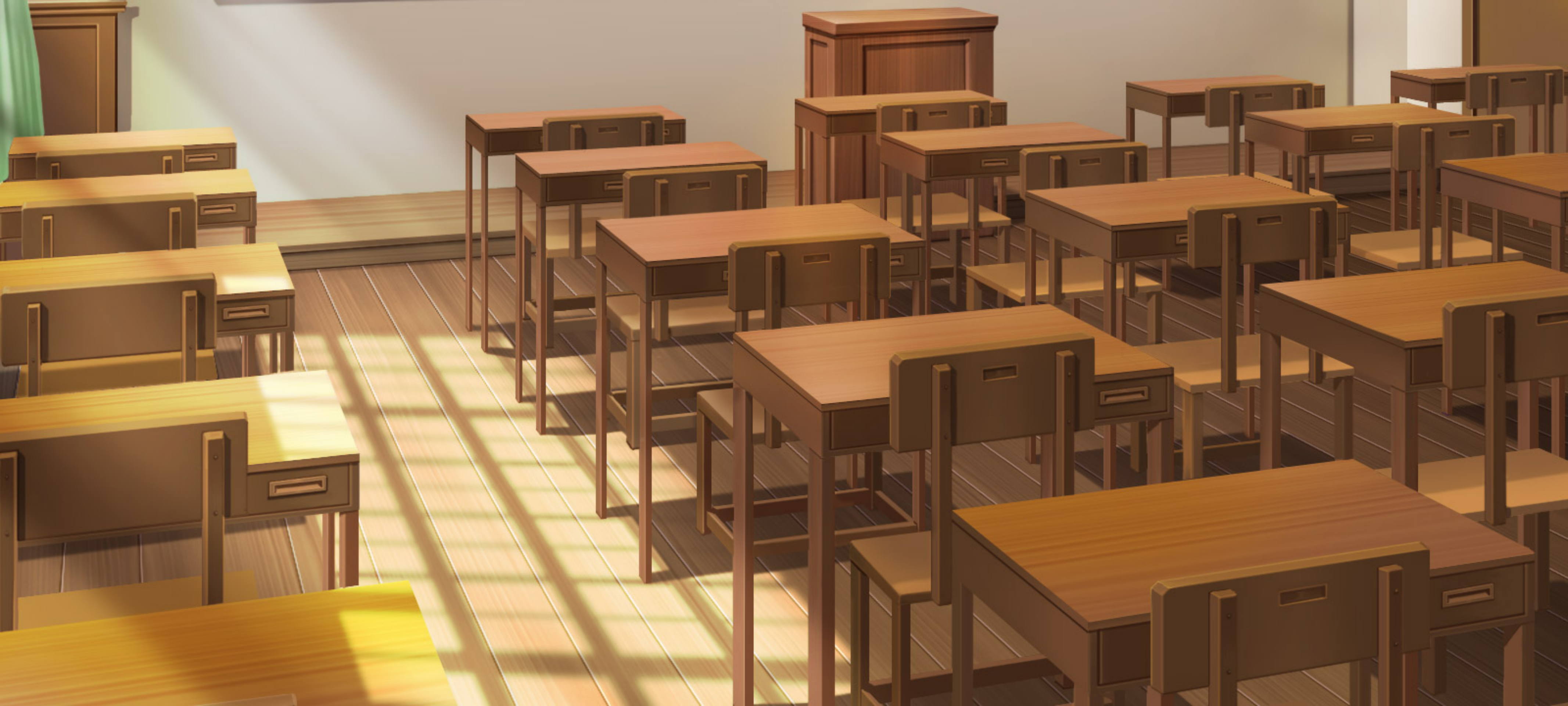
たぶん その時先生も含めて
クラス中が唖然として
玲緒を見ていたと思う

簡潔すぎる挨拶と
まるで相反する
愛らしく華やかな容姿…
そのギャップに
ただただ呆然としていた

教室を支配する沈黙を
最初に破ったのもやはり
彼女の可愛らしい声だった

でワタシの
席は何処？





ちよつと麻衣！
麻衣ったら！

まあ要するに
態度がでかいって
ことなんだけど

今でも目に浮かぶ…
小さな身体でめいっばい
胸を張った玲緒はまるで
王侯貴族のようだった

へ？

放してよっ！
手っ！

え？ あああ..
ごめんごめん

いつの間にか
玲緒の手を強く
握りこんでしまっていた



ふみゆうう…

分かったわよっ
どっかからバター
奪ってくればいいんでしょ

奪うな

わたしが手を放すと
玲緒はふうふうと
手に息を吹きかける
うーん よっぱど痛かったか



お願いして
分けてもらうの

えー

欲しい物は力で
手に入れるべきじゃないの

ここはサバンナか



…あ そうだ
まさかとは思うけど…
お弁当 持ってきたよね？

お弁当？ ううん
持ってきてない

持ってきてないのっ!?

調理実習があるのに
必要なの？



玲緒 今日
何を作るか知ってる？

ケーキでしょ？
それくらい知ってるわよ

そうよ

あなた お昼はケーキで
済ますつもり？

『文句ある？』とでも
言いたげに
玲緒は斜めに構える

このおバカ！
ちゃんとしたもの
食べなさい！

ああっ また
バカって言った！

食事代わりに
お菓子食べるの
止めなさいって
言ってるでしょ！

いいじゃない
好きなんだから



そういう問題じゃないのっ！
はあ…いいわわたしの
お弁当を分けてあげる

いついらないわよ
麻衣のお弁当なんて

なに意地張ってんのよ
食べないで過ごすつもり？

お菓子なら
常備してるもん



ダメ
そんなのばっか食べてたら
身体に良くないわよ

ていうかこの間の
健康診断でお医者さんに
注意されたの忘れたの？

ううう

体育の授業でしよっちゅう
貧血で倒れられたら
わたしが困るのよ

…そこまで言うなら
少しだけ食べてあげるわ



はいはい最初から素直に
そう言えばいいのよ

でも調子に
乗らないでよ

ワタシは麻衣の
説得に負けた訳じゃ
ないんだからね

たまには野菜も
食べたいかなーって
思ったのよ分かった？



はいはい

…ふんっ

あっ

ちよつと頬を染めて
そっぽを向く 玲緒は
ワタシが少し気を緩めた隙に
サッと手を引いた



An anime-style illustration of two girls in a classroom. The girl on the left has long blonde hair and blue eyes, looking angry with her mouth open. The girl on the right has short dark hair and purple eyes, looking surprised with her mouth open. Both are wearing red sailor-style school uniforms with black bows. The background shows a classroom with desks, a chalkboard, and a potted plant.

馴れ馴れしく
さわらないでよね

逃げないわよっ

逃げちやダメよ

そうしてわたしたちは
バターを求めてクラス中に
声をかけ始めた




翌日――

は…は…は…
はくしゅつ！

乙女の口から出たとは
到底思えないほどの
大音量が部屋に響く

うゝ…マズイわ…
ずずつこりや
本格的に風邪引いたか…




一端自覚すると
怒濤の勢いで
風邪の症状が襲ってきた

取り急ぎ
学校へ電話して
風邪で休むと伝える

けれど…まだ
安心は出来なかった

そんなことより…
玲緒のことが心配…



あの子ほんとに
友達がいらないから…

今頃なにしてるかな？
さすがに今日は
お弁当持ってきたわよね

一人で食べてるなんて事は…
あるかもなー誰かが
声をかけてくれると
いいんだけど…

ベッドの柔らかさに
吸い込まれるように…
わたしの意識は
闇に溶けていった

ドサッ


あ…ダメだわ…
頭がクラクラする





ピポ





ん…あれ…わたし…
あそつか
ベッドに倒れ込んで
そのまま…

今何時くらい
なんだろう？

時刻は
3時30分過ぎ—

ピーポー
ピーポー

はいはいはい…
インターホンは
一度鳴らせば結構よ

玄関を開けると
勢いよくドアが開く

わっ

麻衣の
ばかーっ!!

れ
玲緒…

なんでガッコー
来ないのよっ!

いいや風邪
引いちやつたから…



学校にもちゃんと
連絡入れたんだけど…

風邪でも盲腸でも
車に轢かれてもワタシが
登校してるんだから
学校に来なさいよっ

無茶
言わないでよ



アンタがいないと
ワタシ…ワタシ…っ

ぷるぷると体が震える玲緒
相当怒っているらしい
でも泣きそうになってる…



怒るか泣くか
どっちかにしなさいよ

ううう
うるさいわねっ
そんなの勝手でしょ

明日は行けると
思うから…

当たり前でしょっ
いつまで休む
つもりだったの！



たはは…

ワタシに困ったことが
あったらどうするのっ

麻衣がいないと
化学室も音楽室も
分からないんだからねっ

今日なんか迷子に
なっちゃったんだからっ



れ 玲緒…
そろそろ二ヶ月経つんだし
それくらいは覚えようよ

お弁当も一人で
食べなきゃ
ならなかったし

そうなの？

そうよっ



クラスの子に思ってるのと
違うこと言っちゃったし

あつちや〜...

全部アンタが
来ないせいだからねっ

麻衣のバカっ
明日は必ず来るのよ!



んー
まあ 頑張る

その気弱な
発言はなにによっ

ワタシの面倒
ちゃんとみなさいよね！

そうは言っても
熱が下がらなかつたら
行けないし



明日行けなかったら
玲緒はクラスメイトと
お昼を食べてね

…う

ばかばかばかつ
麻衣の
大バカ〜っ!!



語尾を思いっきり
強くして言うのと
踵を返すように
外へ出て行ってしまった

玲緒っ

な何故そこまで
罵倒されなきゃいけないの？

というか玲緒
なにしに来たんだろう…
はああ…

でも 玲緒に会えて
ちよつと
元気出たかも
—
ん…？

玲緒がいた場所に
ビニール袋が無造作に
置いてあつた

玲緒ったら
また忘れ物して…


中身を見ると
風邪薬やらドリンク剤が
袋いっぱい入っていた
全部持つと
結構な重さがある

これ…わたしのために
買ってきてくれたの？

……
くすつ 玲緒ったら

冷えたドリンク剤の
瓶には雫が付いていた
瓶を頬に当ててみる

気持ちいい…
ありがと 玲緒♪



なんだか顔が
にやけちゃう
胸の辺りがむず痒い

それにしても
わたしが心配なら
そう言えばいいのに
ほんと素直じゃない子ね

でも玲緒のこっぴどい
憎めないのよね
だつて可愛いんだもん

うふふ

玲緒のためにも
明日は学校に行かなきゃ

風邪薬と
栄養ドリンクを飲んで
さっさと寝ようって



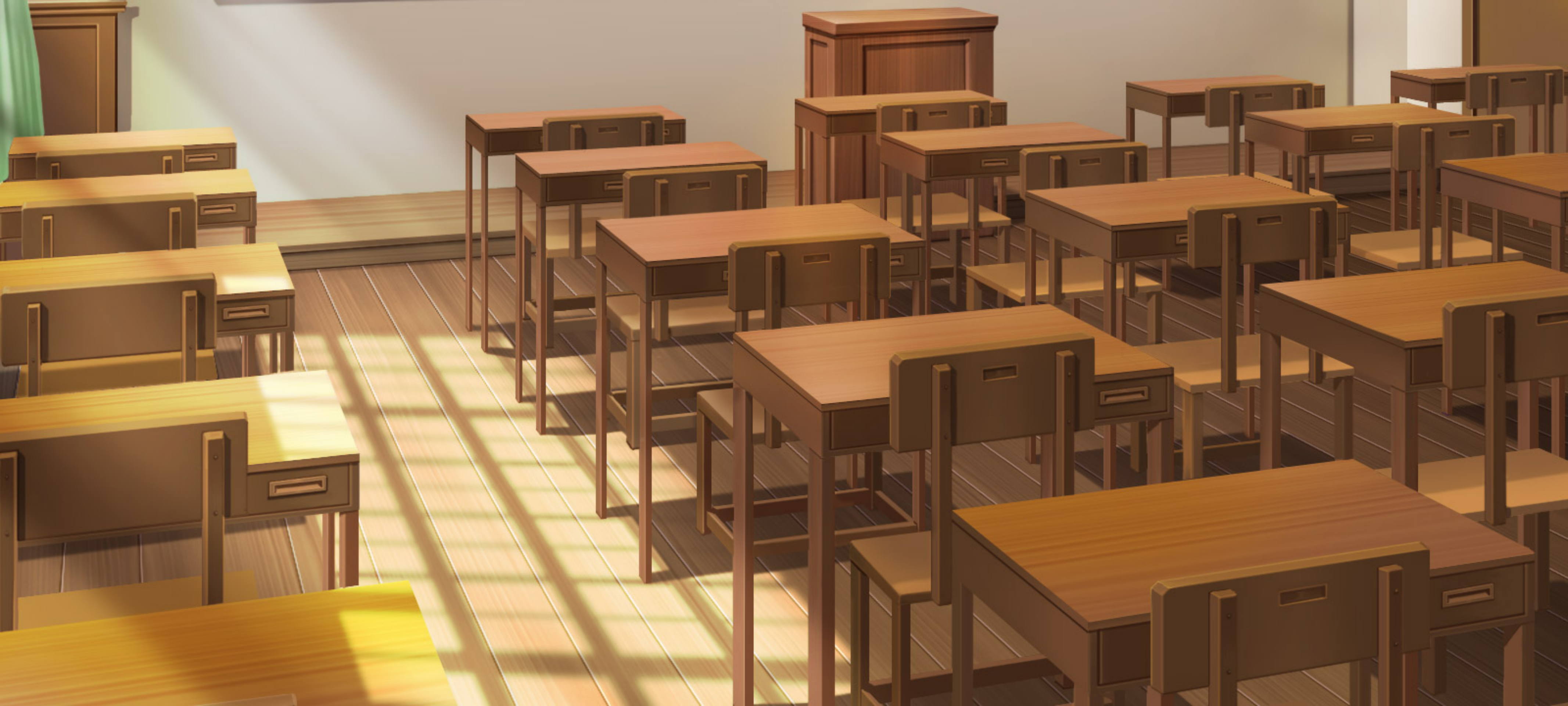
次の日 熱は
すっかり下がっていた

玲緒が持ってきた
薬のお陰かな？
お礼を言わなきゃね

制服に着替えて
黒髪を櫛で梳く

これで良し…と





早めに教室に入ると
あつという間に
クラスメイト達に囲まれた

彼女たちは気遣うように
わたしを迎え入れる

その表情は
なんともあたたかい…
というかなんか縋るような
目をしている気が…



麻衣さん
お待ちしております

麻衣さあん

お風邪は
もういいの？

ええ 一泊したら
すっかり



よかった
ほんつつとーに…

ハンカチを握って
涙ぐむ彼女たち…
たった二日の休みで大袈裟な…

今日もお休みになられたら
もうどうしようかと

どうか
なさったの？



昨日
玲緒さんが…

玲緒っ？ 玲緒が
何かやらかしちゃった？

いえ玲緒さんに
非はありませんのよ

全てはわたくしたちが
至らないせいですの



はあ

教室を
見てください

様々なところに穴が
開いてますでしょうか？

えっ？



見渡すと壁に
小さな穴が開いていた
おまけに貼られた
プリントも少し破かれている

まさかこれ…
玲緒が？

しくしくと泣きながら
頷くクラスメイトたち

どうして
こんなことに…



昨日は麻衣さんが風邪で
お休みだったでしょう？

だから代わりに
わたくしたちが玲緒さんの
力になろうと思ったの

そうしたら…

めそめそ…



近づいたら承知しないって
机を投げ飛ばされて

寄らば
噛みつくような様子で
手も足も出なくて

結局なんの力にも
なれなかったのですわ

あ……う……



玲緒つたらみんなの
好意を無駄にして…

わたしたちでは
麻衣さんの代わりは
務まりません

回復されて
ほんつとーに
良かったです〜

なるほどみんなが縋る目で
わたしのところへ
やって来たのはそのせいかな



みんな…ごめん

麻衣さんのせいでは
ありませんわ

全てはわたしたちの
不徳の致すところです

ええ
その通りですわ



はああ…

玲緒のために
頑張つて治して 今日
登校して良かったかも

あまりのごとで
呆れちゃう…
玲緒らしいんだけどね

それにしても…
わたしの代わりは
いないっていうのは
少しだけ嬉しい気がする



安心してください
もう昨日のようないきさ
なりませんか

よかったわ

あっ 玲緒さん

玲緒の登校に気付いた
彼女の視線の方向を見る



ふわふわの髪に
どこか不機嫌そうな顔
いつもの玲緒だった

…あ

顔を合わせるなり
ちよつと顔を背ける玲緒

昨日のお礼を言おうと
みんなの輪から抜けて
玲緒の席に向かった



昨日はありがとう
玲緒のお陰で全快よ

なっ
なんのこと？

なんのこつて…
昨日お見舞いに
来てくれたでしょ？
薬良く効いたよ♪

し知らないわよ
そんな物…夢でも
見たんじゃないの？



ふふっ 夢じゃないよ
玲緒には
ほんつと感謝してる♪

きゅっと手を握ると
ぽんつと顔を
赤くする玲緒

ななななに
勘違いしてるのよ
手を放しなさいっ
麻衣の分際でっ もう

ぶんぶん手を振って
玲緒がムリヤリ手を放す
それから玲緒は
急に席を離れようとした

どう行くの？

どきども
いいでしょ

付いていってあげる

いいわよ
一人でいけるからっ



でも心配だよ
昨日迷子になったって
言ってたし

うっほっといて！
手を洗いに行っただけ
なんだからっ

なんだ
トイレか

洗面台で
手を洗うだけよっ



恥ずかしがる事じや
ないと思うけど？

だから違うんだってばっ
と途中で野良猫を
さわったのっ だから
洗いに行くだけそれだけっ

ふーん…
恥ずかしがらなくても
いいのに

だから違うって
言ってるでしょ!!



はいはい あ…
わたしも行こうかな

…っ!?
なんで来るのよっ
付いてこなくていいって
言ってるじゃない!

そう言われても
行きたくなっちゃったし

ぜったいワタシに
付いてこないでよねっ



どうして?
風邪なら治ったから
近くにいても
うつらないと思うよ?

…そーじや
ないんだつてばっ

?..?..?

とにかく
付いてきたら
許さないから



許さないって
どう許さないんだろう
うーん…

ふんっ

あれこれ考えていると
さっさと教室を
出て行ってしまう

てか…そこまで
頑なに拒否されるとかえって
追いかけたくなるのよね






玲緒

ひっ!!

後ろ姿を見かけて
声をかけると気付いた
玲緒が走り出した

てか…どうして
逃げようとするのよ?



玲緒を追いつめるように
わたしも走る

ぱたぱた
ぱたぱた

ぱたぱた
ぱたぱた

なんで追いかけて
くんのよーつ

玲緒が
逃げるからでしょーつ

玲緒はトイレと
全く関係のない
方向へ走っていく

トイレは
嘘だったのか



待ちなさ〜い

追いかけて
くるな〜っ

学園の敷地に不慣れな
玲緒はキョロキョロ
見回しながら走っている

そのため足が
止まりがちになり
距離が縮まってい



はあはあ
今日はしつこいなあ

逃がさないって
言っただでしょ！

玲緒の前に立つと
そのまま玲緒が
わたしに飛び込んでくる

わわわわわっ



掴まえた

くっこんなところで
掴まって
たまるもんですかつ



手を掴むと同時に
玲緒は足を引っかける

きやう

思わず体勢を崩して
転びそうになった隙に
玲緒は校舎の外へ飛び出した





障害物が極端に少ない
裏庭へ出たのが最後
上履きのまま全速で走り
玲緒の腕を掴まえた

放しなさいっっ

身動きが取れない
状態にしても
玲緒は暴れた

足速過ぎなのよっ
だいたいなんで
追いかけてきたりするの！



玲緒が逃げるからよ
昨日のお礼を
してただけなのに…
なんで逃げるのよ

お お礼なんていらさないわよ
そんなつもりじゃないんだから
余計な気を回さなくていいのっ

そうは言ってもねえ二応
心配してくれたんでしょ？
だったらお礼を
言うのは当然だよ

そ そうかも
しれないけど…



そこまで意地を張るなら
どうして昨日来てくれたのよ

だってワタシ…

ん？

ワタシ…
やっぱ言えないっ



なに？
気になるよ

言えないっ言っても
意味ないもんっ

どうして
意味がないなんて
思うの？

言っても 気まずく
なるだけだから



もしかして…玲緒
わたしのこと嫌いなのか？

えっ

押しつけがましく
世話するの
迷惑だと思ってる？

昨日はそれを
言いに来たの…？





ち 違うつ
麻衣のバカっ

かあ〜...

ああ



逆だもんっ！
好きなんだもん！

ええっ なんで
バカって言われんのよ

は...好きって？

かあ〜...

ああ



この鈍感！
あんたのことが
好きだって言ってるの！

麻衣が好き！
大好きっ！

かあ〜…

あち

……へ？



かあ〜...

いわゆる
「LOVE」じゃない？

好きって
あれかな

ああ

今なんて
言ったの？
好き？

ってええええ
えええええっ!?



かあ〜...

なっ なっ..
なんっ なんっ

ああ

なに言ってるの!?
好きって
どういう好き?

あの『好き』?
恋愛対象の
『好き』ってどんなの?

ぎゅっと目を瞑って
叫ぶ玲緒は 白棄が
入ってるように見えた



かあ〜...

でも
えっとえっと...

頭の中が
ぐるんぐるんする
ほんとに告白なの？

気付きなさいよね
バカ！

ああ

なあああ...
えええつ？

かあ〜

だからって訳じゃないけど
他の娘に告白されたときの
何十倍も混乱してる

玲緒の気持ちに
気付きもしなかった

でもなんてゆーか
今のはフェイントだった
全く予想してなかった

ああ

そりや ミカ女の娘に
告白されるのは
初めてじゃないし
手紙だつて
もらったことがあるけど



かあ〜…

…う

ほ 本気で
言ってるの…よね？

ああ

馬鹿な質問を
してしまったと後悔した

目の前にいる
玲緒の顔を見れば
本気に決まってるのに…



…ひゅく
ひゅく…

わたしの頭の中は
もう真っ白だった

それでも突然のことで
信じられなくて

あー



うん...

危なっかしくてそれで
面倒みてただけでしょう
知ってるもんっ

どーせワタシのこと
ただのちびっ子だと
思ってたんでしょっ

あーっ

れ
玲緒...



うん...

あーんなんて
言えばいいのー？

ビックリして
頭が回らないっ

あーん

ち 違うわ
そうじゃなくて...
その...

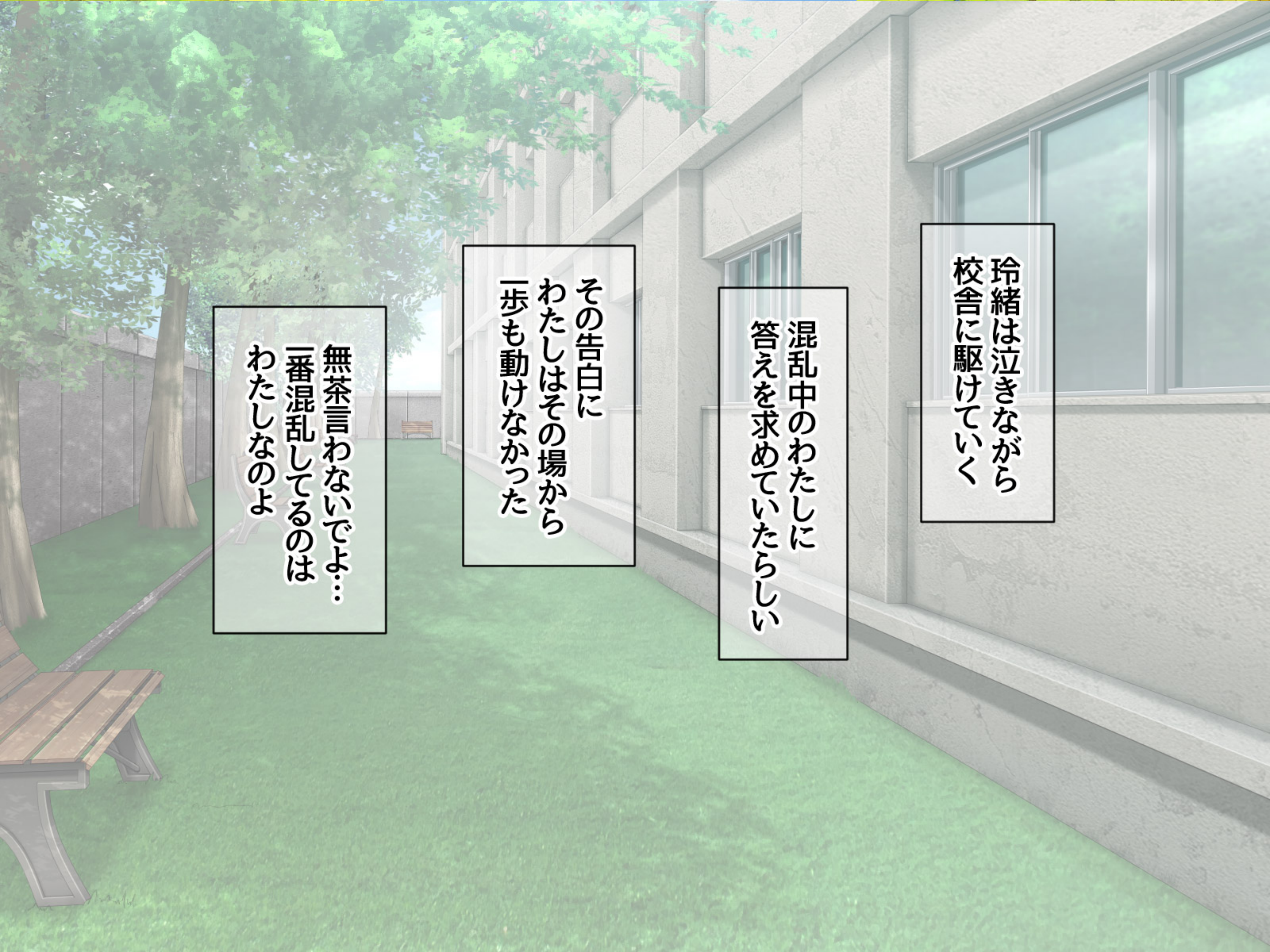
ほらねっ
告白なんかしても
意味ないじゃんっ

気まずくなる
だけじゃんっ
…く…ふええっ

言えっって言っただの
麻衣の方だからね！

麻衣のバカ！
うわあああんっ



The background is a digital illustration of a school courtyard. On the right is a two-story building with a light-colored, textured wall and several windows. A path leads from the foreground towards the building. On the left, there are large, leafy green trees and a wooden bench. The ground is covered in green grass.

玲緒は泣きながら
校舎に駆けていく

混乱中のわたしに
答えを求めていたらしい

その告白に
わたしはその場から
一歩も動けなかった

無茶言わないでよ…
一番混乱してるのは
わたしなのよ

玲緒 あなた…

玲緒の駆けていった方に向け
わたしはただ呆然と
言葉にならない
気持ちを投げかけた





その花びらにくちづけを

あなたと恋人つなぎ

その花びらにくちづけを

あなたと恋人つなぎ

よく
わかんない…

そうよね お嬢様は
普通こんなこと
しないもの

わたしは
指と舌の動きを
激しくしていく

玲緒は本当に
敏感な体質らしく
食い込ませた指に
ヒクヒクと
褄が圧迫してくる

はぁ♡
はぁ♡
はぁ♡

ちゅっ
ぽっ

ちゅっ
ちゅっ

んはあっあ…
ん♡麻衣い…

脚が当たってるっ
んあん…ん♡ふ…
ん♡ちゅ♡ん♡ちゅ♡

玲緒…
わたしのこと好き？

い言えない…
そんなこと…

その花びらにくちづけを
あなたと恋人つながぎ

その手紙渡したら
ミンチにしてやるっ

きゅん!?

がーんがーん!!

その花びらにくちづけを
あなたと恋人つながぎ



はぁ♡♡

やだ 変なこと
言わないでよ...

ただでさえ感じやすい
みたいなんだから...
イキたくなる

だーから
いつでもいいの♡

んっ♡♡

しゃっ♡

ちゃっ♡

その花びらにくちづけを
あなたと恋人つなぎ



その花びらにくちづけを
あなたと恋人つなぎ

はあ♡
はあ♡

み…見ないですよっ
えっちっ

そう言われても
脱がさないと
汚れるよ？

ぬ脱ぐけど…
見ちゃダメ

無理ね
玲緒が魅力的
過ぎるんだもん♡

その花びらにくちづけを
あなたと恋人つながぎ

その花びらにくちづけを

あなたと恋人つなぎ



ふぐり屋



基本画像21枚+立ち絵8体
差分を含め 総CG枚数970枚

原画：ぺこ
シナリオ：佐野晋二郎

その花びらにくちづけを

あなたと恋人つなぎ

コミック版